

上山中学校

コミュニティ スクール通信

Vol. 4

令和5年3月発行
第4回学校運営協議会
上山中学校 CS 事務局
南・須

田

第4回コミュニティスクール（CS）会議

令和5年2月20日（月）14：35から開催されました。

《 第1部 》 授業参観（6限）

委員の方に自由に参観をしていただきました。

《 第2部 》 協議会

1. 校長挨拶

卒業式まで残り8日となりました。3年生は小学校の卒業式・中学校の入学式とマスクを着用し、それから3年間ずっとマスク着用の学校生活が続いています。文部科学省が換気などの感染症対策を施したうえ、卒業式で生徒・教職員ともマスクを外すことや、歌を歌う場面ではマスクを着用することなどの方針を説明しました。ただし、来賓や保護者にはマスク着用を求めています。卒業式の4日後に公立高校の一般入試が控えており、マスクを外すことが不安な生徒もいますので、上山中学校では入退場と証書授与の場面で外すことを基本としますが、それ以外はマスク着用で実施したいと考えています。

また、令和5年4月から3年間をかけて、全国の中学校の部活動の在り方を変えていくという方針が国から出され、たびたび報道されています。来年度以降、上山中学校の部活動をどうするのか。これまで学校でも検討を重ねてきました。その方向性が決まりましたので、今回、部活動改革について説明させていただいて、皆様からご質問・ご意見をいただきながら、来月中旬頃には生徒や保護者の皆様にもお知らせしたいと思っています。

今回は、今年度最後の学校運営協議会となります。よろしくお願いします。

2. 学校運営協議会 山崎会長挨拶

今年度から学校運営協議会（CS）がスタートし、学習や行事の見学、校長先生からの具体的な学校の様子を伺いながら、私たちも学校を身近に感じることができています。また「通信」の回覧により、保護者だけでなく地域の皆様からのご協力いただき、『地域で育む学校』として進んで行けることを願っています。

学校の制度変更・改革で大変と思いますが、先生方の生活の確保もしながら進んで欲しいと思います。

今年度もあとわずか。3年生はそれぞれの目標に向かって全力投球しながら、仲間と一緒に過ごすことを大切にしてください。次に最高学年として学校をまとめることにチャレンジする時期の2年生、後輩を迎える心構えを作る時期の1年生。生徒がより充実した日々を過ごせるよう校長先生をはじめ、教職員の皆様のご支援をお願い致します。

3. 協議

1) 後期・年間の学校評価について

①担任の負担が増加しているので、業務を減らしたり、合理的に合わせたりしながら、プラスの評価になる



様にしていく。

②学校意識調査で肯定的評価は80%であるが、全ての項目で昨年度の同学年と比較して、「とても思う」が減少し、「まあ思う」が増加している。

③生徒が自分で考え判断・行動し責任を持てるようにしていく。

2) 令和5年度学校経営方針(案)について

- | | | |
|-----------|------------------------|-------|
| 1 教育目標 | 自主 協調 創造 | |
| 2 目指す学校像 | みんなが安心して生活し、生き生きと学ぶ学校 | |
| 3 目指す教職員像 | 信頼される教職員 | |
| 4 目指す生徒像 | 自分の人生を自分で切り拓くことができる生徒 | (主体性) |
| | いろいろな出来事を自分事として考えられる生徒 | (社会性) |

キーワードは「主体的」

自ら考え判断し行動するとともに、自らの行動がもたらす結果にも責任をもつことができる
「教師が ○× を示す指導」 → 「生徒が自ら考え判断し、行動することの支援」へ

<何故、主体的なのか？>

生徒は、教職員の指示を待って行動していた方が楽である。難しいことを考えなくてもいいし、自分で責任を取らなくてもいい。指示さえ聞いていれば、面倒事はすべて教職員が引き受けてくれる。その結果、何事についても他者の指示を仰ぎ、自分では何も決めず、自らの失敗を他者の責任に転嫁するようになる。

5 育成する資質・能力

- (1) 聴く力 … 関心や考えをもって聴く。質問できるように聴く。自分の経験や考えと照らし合わせながら聞く。
- (2) 伝える力 … 自分の意図が理解してもらえるように伝える。相手がいることを意識して伝える。
- (3) 行動する力 … 自分で考え判断して行動する。周りのために行動する。
- (4) 調整する力 … 一人一人が違う考えを持っていることを理解して、妥協点を探したり折り合いを付けたりする。

6 令和時代に求められている日本型学校教育

教師から与えられたことをこなすだけでは、これからの時代を生きていくために必要な力は育たない

- | | | |
|--------------------|---|----------------|
| (1) 知識・技能の習得から | → | 資質・能力の育成へ |
| (2) 画一性から | → | 多様性へ |
| (3) 一斉一律な学びから | → | 個別最適な学びと協働的な学び |
| (4) インプット型の授業 | → | アウトプット型の授業へ |
| (5) 教師主導(教師が教える)から | → | 生徒主体(生徒が学ぶ)へ |
| (6) 教師が創る学校から | → | 生徒が創る学校へ |

7 上山中学校の課題

(1) 不登校・不登校傾向生徒数・割合(上山中 R4.12月末 現在)

不登校(欠席30日以上) 全校42人 (5.25%)

不登校傾向(欠席30日未満) 全校21人 (2.63%)

(2) 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合

(全国割合(%)) : R4年全国小・中・高校1800校を調査、上山中 : R4年7月調査市教委へ報告)

8 重点事項

「誰一人取り残さない、全ての生徒の可能性を引き出す質の高い教育を目指していく」

生徒の 80% が目標を達成したから教育は OK というのではない。残りの 20% の生徒たちにも未来がある。全ての生徒が最大限に自らの可能性を伸ばしていくために、生徒の学ぶ意欲を高めていく。

生徒の「学びたい」「やりたい」「挑戦したい」という意欲を高めていく！

誰がなんと言おうと、人は自分の意志でしか学ばない

9 具体的な方策

「今までは～」から ➡ 「これからは～」へ
生徒は過去を生きていくのではなく、未来を生きていく！

(1) 生徒の「主体的な力」を育てる環境づくり

- ① ノーチャイム。
- ② 校則の見直し。特設委員会（生徒、教職員、保護者、地域）を組織する。
→ どんな学校を目指し、どんな生徒になりたいのか。そのために、校則はどうあったらよいのか。
- ③ 総合的な学習の時間を探究の授業へ発展させる。（問い→課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）

(2) 教職員が授業で勝負するための環境づくり（働き方改革）

- ※ 授業力の向上は指導と評価の一体化が要である → 授業準備・授業の振り返りの時間の確保
- ① 目的を吟味し、「絶対に必要なこと」に集中するために、「やった方がよいこと」は辞める
・ 通知表の所見の廃止、学問のすすめの中止等
 - ② 予算の有効活用 → NRT テスト等の廃止、印刷環境の整備（オルフィスの購入等）
 - ③ 教職員の勤務時間に応じた校時表への改革
・ 部活動・清掃時間の短縮・放課後の諸活動なしの日の設定（職員会議・研修・授業準備時間へ）

(3) 地域で育てる環境づくり（地域で生徒が活躍する場の設定）

- ※ 地域貢献を通して、生徒が「役に立つ」「認められる」「感謝される」場を増やす。
- ・ 生徒が地域（自治会長様）へ学校の配布物を届ける仕組みを作る。（全校朝会で認証状の授与）

(4) 対話できる環境づくり（仮称：上山中の未来を語る会）

理想の学校像や生徒の姿を共有し協働関係を構築するために、生徒・教職員・保護者・地域が一緒になって、理想の学校・具体的な方策をみんなで語り合う場を設定する。

【質疑応答】

① 誰一人取り残さないようにするにはどうしていくか？

<学校より>

- ・ 教職員の研修や会議を継続したり、学校部活動改革で部活動の時間を減らすことにより（新 3 年生の部活動が終了後）、その生徒について考える時間を確保し、対応の準備をする。

<委員より>

- ・ すぐに結果は出ないが、保護者の方からご意見があれば CS 委員からも地域にアピールして行きたい。

② 生徒による地域への文書のお届けについて

<委員より>

- ・ コロナ前は生徒が実施していたのでできると思うが、無理やりさせるようなことはしないで欲しい。

<学校より>

- ・ 生徒が自主的にできるよう仕組みを整えたい。

承認されました

3) 令和5年度からの部活動・校時表について

1) スポーツ庁・文化庁より示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方」に関する総合的なガイドラインに準じて準備を進め R7 年度末までに施行する。上山中でも各部活動ごとの実情や生徒の実態を踏まえ、段階的・計画的に活動内容を改革していく。生徒の多様なニーズに応じ選択肢を広げる。時間を短縮したり、休養日を適正に設定したり、過度の負担を無くすようにする。

〔 具体的な取組 〕

- ・新3年生の部活動については、大会終了までは準備期として平日は18時までとする。大会後は改革推進期として、平日は17時までとする。
- ・週休は2日以上設定し、月曜日は休養日として教職員は会議や研修に充てる。休日は1日以上取る。
- ・令和5年度は大会には上山中学校で参加し、登録・引率は教職員が行う。(水泳・剣道・男子バドミントンは要検討)

2) 地域移行の取り組みについて

- ・希望する全ての生徒が参加でき、多様なニーズに応じてスポーツ・文化芸術に親しむ機会を指導体制に応じて段階的に確保する。
- ・既存のクラブチームに参加できるようにする。
- ・適正な休養日を設定し、できるだけ短時間に合理的かつ効率的効果的に活動する。

〔 具体的な取組 〕

- ・学校と地域との連携・協働により環境を整え、休日の学校部活動の地域クラブ活動への段階的な地域連携・地域移行を進める。(平日のできるのところから進める) 教職員以外の方からの参加を促すことから始める等各学校部活動の実情に応じて可能性のあるところから様々な方法を施行してみる。

(例)・外部の方にサポーターとして休日に指導に加わってもらう。

⇒将来的にはエキスパートやサポーターが運営主体と指導者を兼ねる。

- ・既存のクラブや道場の指導者に休日の指導に加わってもらう。

⇒将来的には生徒は学校部活動ではなく、既存のクラブや道場で活動する。

- ・保護者が組織されている場合、保護者が運営主体となり、地域の方に指導を依頼したり、保護者が指導者となって活動したりする。

【 質疑応答 】

<委員より>

- ①小学校ではすでに地域の方が指導しているので、案外うまくいくのではないかなと思う。
- ②今まで生徒も保護者も一生懸命やってきた。好成績を目指すチーム・楽しくやりたいチーム様々あり、学校ごとで温度差が出てくるのではないかな？
- ③地域移行により指導料が発生した場合、経済的負担が増えたために継続困難な家庭が出てくるのではないかな？

<学校より>

- ①好成績を取りたい生徒は既存のクラブチームへ行くことができ、そのチームで大会に出場することもできる。(各種目により出場の基準の違いはある)
- ②指導者を依頼できるか、指導料は発生するのか、好成績を目指す生徒が継続できるのかなどの問題があるが、令和7年度末までに施行・改善しながら整えて行く。3月中旬頃、校長より保護者・地域の方へ説明がある。